

ペレニアルライグラス「夏ごしペレ」の本県における栽培適応性

1 背景・目的

ペレニアルライグラスは栄養価に優れ、家畜の嗜好性も高い永年牧草であり、本県においても混播牧草として利用される。しかし、夏季の高温に弱く、本県では枯死による消失も見られる。そこで、収量及び越夏性に優れるとされるペレニアルライグラス「夏ごしペレ」の本県における栽培適応性について調査した。

2 技術のポイント

刈取回数は放牧兼採草利用を想定し年5回とした。高温により株が枯死する恐れがあるため、気温が高い8月は刈取を避けた(表1)。

- (1) 夏ごしペレは標準品種のフレンドと比較して、草丈が高く、年間生草収量は多い(図1、2)。
- (2) 越夏直後(9月上旬)の夏ごしペレは、フレンドよりも葉枯の程度が低く、草勢も良好で越夏性に優れる(表2、写真1)。

表1. 刈取時期

1 番草	2 番草	3 番草	4 番草	5 番草
5月上旬	6月上旬	7月中旬	9月中旬	10月下旬

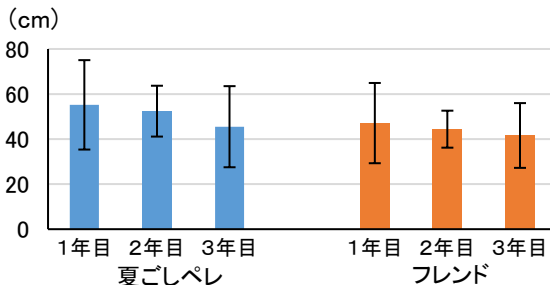


図1. 年間平均草丈

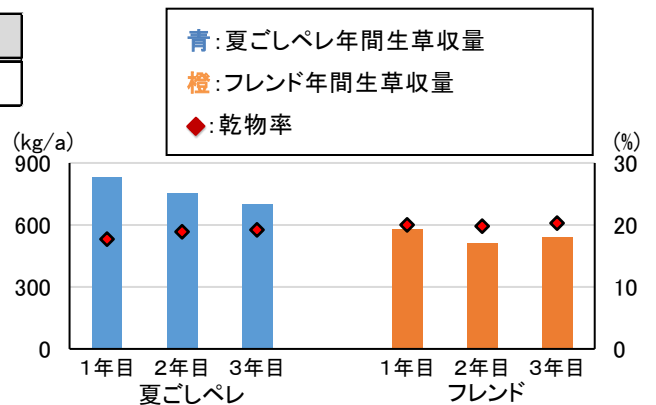


図2. 年間生草収量及び平均乾物率

表2. 越夏性 (9月上旬の草勢)

調査	夏ごしペレ	フレンド	有意差
利用1年目	6.8	4.8	**
利用2年目	7.3	4.3	**
利用3年目	6.8	4.8	**
平均	7.0	4.6	**

※極不良を1～極良を9とする評点法

**p<0.01



写真1. 越夏後の生育状況(利用3年目)

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 夏ごしペレは放牧兼採草利用を想定した年5回の刈取が可能であり、利用2年目以降も多収が期待できる。
- (2) 高温時の刈取は、株が枯死する恐れがあるため避ける。夏季(8月頃)に草の再生が鈍化した場合、越夏直後(9月上旬)に N:0.3kg/a 程度の追肥を行う。